

第三十七章 人種平等問題（各國民均等待遇問題）

我第一案ト聯盟委員會

講和會議デ聯盟規約ヲ作ル時ニ我國ガ最モ力ヲ入レタ問題ハ各國民ノ均等待遇ニ關スル主張デアツタ、此事ハ遍ク人ノ知ル所デアルガ、記憶ヲ辿ツテ當時ノ經緯ヲ簡單ニ述ベテ見ヨウ。

各國民均等ノ主義ハ國際聯盟基本綱領ナルニ依リ、締約國ハ其領土内ニ在ル外國人ニ附與スベキ待遇及權利ニ關シテハ、法律上並ニ事實上何人ニ對シテモ、人種或ハ國籍ノ如何ニ依リ差別ヲ設ケザルコトヲ約ス。

右ハ我第一案デ之レヲ「ハウス」大佐ニ内示シタラ反對サレタノデ、第二案トシテ前記「外國人」以下「何人ニ對シテモ」迄ヲ「外國人ニ對シ法律上並事實上正當權力内ニ於テ爲シ得ル限り均等ノ待遇及權利ヲ與ヘ」ニ改メタモノヲ示シタ、「ウキルソン」大絶領ハ右ノ内「正當權力内ニ於テ爲シ得ル限り」ノ代ハリニ、「成ルベク速カニ且ツ出來得ル限りノ」字句ヲ使用センコトヲ要求シ、若シ我方デ此修正ヲ承諾スレバ規約ニ追加スベキ新條項トシテ同大統領カラ之レヲ聯盟委員會ニ提議シテモヨイトノコトダツタ。然ルニ英國側カラ人種問題ハ聯盟ト直接ノ關係ガ無イカラ規約中ニ掲グベキモノデハ無イト強硬ナ反對ヲ受ケ、爲メニ我主張貫徹ノ前途ニ大ナル難關ガ横ハルニ至ツタガ、一應我主張ヲ公然委員會ニ宣明シ將來ノ地歩ヲ作ツテ置

ク方ガ得策デアルカラ、規約案ガ第二讀會ニ入ツタノヲ機會ニ、大正八年二月十三日左記ノ追加條項ヲ委員會ニ提出シタ。

各國民均等ノ主義ニ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ締約國ハ成ルベク速カニ、聯盟員タル國家ニ屬スル一切ノ外國人ニ對シ、如何ナル點ニ付テモ均等公正ノ待遇ヲ與ヘ、人種或ハ國籍如何ニ依リ法律上或ハ事實上何等差別ヲ設ケザルコトヲ約ス。

此案ハ「ウキルソン」大統領ノ修正意見ヲ加味シタモノデ、信教ノ自由ニ關スル條項ノ次ニ第二項トシテ追加セントスルモノデアル。牧野全權ハ其提出理由ヲ詳細説明シテ本案ノ可決ヲ要求シタ。此日「ウ」大統領ハ最高會議ニ行ツタ爲メ、議長ハ「セシル」卿ガ代行シタガ、牧野男ノ説明ガ終ルト同卿ハ發言シテ、本件ハ長キ且困難ナ議論ノ目的物デアツタ、英帝國內デハ極メテ激烈ナ論争ノ問題デアルカラ、此規定ヲ規約中ニ加ヘルコトハ之レヲ避ケタイト述ベ、各員亦賛否ノ意見ヲ表明シタガ、委員會ハ本件ト關聯スル信教自由ニ關スル條項ヲモ削リ、兩者共ニ葬リ去ルニ決シタ。此時「ハウス」大佐ハ信教自由ニ關スル條項ニハ「ウ」大統領ガ重キヲ置イテ居ルカラ、同大統領ノ爲メニ此問題ヲ重ネテ提起シ得ルノ權利ヲ留保スル旨ヲ述ベタガ、其後信教自由ニ關スル條項ノ復活問題ハ提議サレズニ終ツタ。

内 交 渉 ノ 概 要

斯クノ如クシテ各國民均等待遇ニ關スル我提案ハ成立セズ、規約案ハ二月十四日講和會議第三回總會ニ報告

サレタ。此際牧野男ハ規約案ノ成立ヲ祝スルト同時ニ、後日會議ニ提出スベキ日本案アルニ付好意ヲ以テ慎重考量セラレンコトヲ希望スト述べ、此問題再提起ノ地歩ヲ作ツタガ、「ウキルソン」大統領ノ歸米中ハ其儘ニ成ツテ居タ。恰モ大統領ガ巴里ニ歸還シタ三月十四日牧野珍田兩全權ハ濠洲ノ「ヒュース」首相ト會見シテ本件ニ關スル意見ヲ交換シタガ、少シモ要領ヲ得ルコトガ出來ナカッタノデ、同月二十一日我方カラ米國及濠洲側ニ左案ヲ内示シタ。

國民平等ハ國際聯盟ノ根本主義ナルヲ以テ、聯盟國ハ他ノ聯盟國民ニ對シ、總テ平等且公正ノ待遇ヲ附與スルノ主義ヲ、是認スルコトヲ約ス。

「ハウス」大佐ハ本案カラ「平等」ナル文字ヲ削リ、又條項トセズニ規約ノ前文中ニ書込ムナラ、妥協ノ趣旨デ之レニ同意シテ差支ナイト答ヘタガ、濠洲側ハ不同意ノ一點張デ頑強ニ反對シタ。我方ハ更ニ讓歩シテ聯盟國民ハ總テ平等ナルノ主義ヲ是認シ」ト云フ一句丈ヲ前文中ニ加ヘント提議シタ。米國ニ異議ノ無イノハ勿勿論デアル、又英本國トシテハ假令其意嚮ハ我ニ同情的デモ、自治領側デ飽迄反對スレバ手ノ附ケ様ガナイカラ、三月二十五日牧野珍田兩全權ハ加奈陀首相ノ寓居デ各自自治領ノ首相等ト會談シ、凝議二時間以上ニ及ンダガ、矢張り要領ヲ得ズニ終ツタ、此時提示シタ我方ノ案ハ夫ノ簡單ナ「聯盟國民ハ總テ平等ナルノ主義ヲ是認シ」ト云フノデアルガ、先方デハ日本ノ主張ハ充分諒トスルケレド、此案ノ文句デハ適用サレル範圍ガ廣ク、日本人以外ニモ及ブカラ困ルト述べ加奈陀「ボーデン」首相ハ妥協案トシテ「各國家間ノ平等及其國民ニ對スル公平待遇ノ主義ヲ是認シ」トセンコトヲ發議シタ。

濠洲首相ノ強硬反對

自治領ノ多數ハ之レニ賛成シタガ、獨リ「ヒュース」首相ノミハ斷乎反對シ、本件ハ措辭行文ノ問題デハ無イ。其背後ニ潜伏スル思想自體ハ濠洲人百中九十五人ノ舉テ排斥スル所デアルカラ、濠洲輿論ノ代表者タル自分ノ立場トシテハ、徹頭徹尾反對ノ態度ニ出ヅル外ナイト述べ、他ノ同僚カラ妥協ヲ求メタラ、諸君ノ行動ハ自由デアル、自分ハ自分ノ本領ヲ守ル丈ケダト傲語シテ協議半ニ席ヲ去ツテシマツタ。一座白ラケザルヲ得ナイ、他ノ自治領首相等モ感情ヲ害シタ模様ダツタガ、サレバトテ一家族タル濠洲ト喧嘩スルコトハ出來ヌカラ「ヒュース」首相ヲ説得スルヲ先決問題ト認メ、時日ノ猶豫ヲ我方ニ求メテ、當日ハ散會スルコトニ成ツタ。

「スマツツ」將軍ハ其後「ヒュース」首相ト會見シテ説得ニ努メタガ、同首相ハ自分ハ決シテ日本ニ反對セントスルモノデハ無イ、只支那人ガ濠洲入國ヲ主張スルニ至ランコトヲ憂フルノダト繰返シ、頑トシテ動かヌ若シ日本ノ提案ガ聯盟規約中ニ採納サレル様ナ場合ニハ、總會デ反對演説ヲ爲シ、此提案ノ結果當然移民問題ガ誘發セラルベキコトヲ、高調スル積リダ、夫レデモ未ダ通過スルナラ自分ハ聯盟規約ノ調印ヲ拒絕スル外ハナイト迄極言シタトノコトダ。「ニュージーランド」ノ「マツセー」首相ハ甚ダ穩健デ、我提案ニ異存ナク却テ「ヒュース」氏ノ説得ニ力メタ位ダガ、「ニュージーランド」ノ政情ニ顧ミ濠洲ト別個ノ行動ヲ採ル立場ニ居ラス。又英本國政府トシテモ戰爭中多大ノ貢獻ヲシタ濠洲ガ不同意ヲ唱ヘル以上之レニ追從スル外

ハナイ、米國モ若シ「ヒュース」氏ガ總會議デ移民問題ニ言及スルト西部諸州ノ意嚮ヲ憚リ矢張り日本案ニ反對セネバナラナクナル虞ガアル。

我新提案ノ不成立

四園ノ情勢ハ斯クノ如クデアル、我ハ極メテ正當公明ナ主張ヲナシナガラ、利己的政策ノ制肘ヲ受ケ、讓歩ニ次グニ讓歩ヲ以テシ其融和貫徹ニ努メタガ、到底纏マル見込ガ無イカラ、四月十一日ノ夜開カレタ聯盟委員會ノ最終會議デ、我方ハ「各國民ノ平等及其所屬各人ニ對スル公正待遇ノ主義ヲ是認シ」ナル一句ヲ、聯盟規約ノ前文中ニ挿入センコトヲ要求シ、牧野男カラ其趣旨ヲ詳細説明シ、珍田子更ニ之ヲ補足シタ。我主張ニ共鳴シ、賛同ノ開陳ヲシタノハ伊國「オルランド」首相ヲ筆頭ニ、佛國ノ「レオン、ブルジョア」「ラルノード」兩氏之レニ次ギ、希臘「ヴェニセ。ス」「チエツコ、スロヴァキヤ」「クラマルシュ」「支那顧維鈞」諸氏亦賛成意見ヲ述べタ。「セシル」卿ハ自分自身トシテハ衷心カラ日本案ニ共鳴スルガ、之ヲ支援シ得ヌノヲ遺憾トスト前置キシタ後、此案ガ單ニ茫漠タル趣旨ニ留マルモノナルニ於テハ、敢テ追加スルニ及バスコトト思フ、若シ有意義ナル場合ニハ多大ノ反對ヲ誘致シ、一國立法權ノ侵害問題ニ亘ルコトト成ル。各國ガ爲サネバナラヌ事柄デ前文中ニ記入漏ノモノハ尠ナクナイ、信教自由ノ問題等ハ即チ是レデアル、日本ハ聯盟ノ常任理事國デ列強ト全然對等ノ地位ニ立ツテ居ルノダカラ、人種問題ヤ國民均等待遇ノ問題ハ常ニ提起スルコトガ出來ルト苦シイ説明ヲシタ。委員會議長タル「ウキルソン」大統領ハ本件ノ難關ハ日本案

ニ對シテ委員會外デ起ル論議ニ存在スルノダカラ、之ヲ打切ル爲メ前文ニ何モ挿入セスコトスルノガ賢明ダト考ヘル。各國民ノ平等ハ聯盟ノ基礎ヲ爲ス原則デアツテ、規約ノ精神ハ各國民ヲ均等ノ地位ニ置坎トスル公正ノ試ミデ大國ヲシテ小國ノ利益ヲ補助セシメント欲スルノデアル、規約ハ各國ノ平等ヲ承認スルノミナラズ、此平等ガ侵迫サレル場合之ヲ防護スル手段ヲモ講ジテ居ルト述べタ。

此ニ於テ牧野男ハ自分ノ意見ハ其代表スル政府並ニ日本國全體ノ意見ノ表示ニ外ナラヌノデアルカラ、委員會ノ判然タル決定ヲ求ムル必要ヲ感ズル、就テハ日本案ノ採否ヲ票決ニ附セラレタイト要求シ、其結果議長以外ノ出席委員十六名中十一名ノ賛成者ガ在ツタ、即チ日本案ノ賛成者ハ日、佛、伊各二名及支、葡、希、塞「チエツコ、スロヴァキヤ」各一名デ、反對者ハ英米以外ニハ伯刺西爾、波蘭、羅馬尼丈ケデアツタガ、議長「ウキルソン」大統領ハ日本案ハ全會一致ヲ得ヌカラ不成立ト認ムト宣言シタ。佛國「ラルノード」教授ハ日本案ガ明カニ多數ヲ得タコトヲ高調シ、牧野男ハ是迄多數決ニ依リテ決定シタ委員會ノ先例ヲ指摘シ他ノ委員カラモ聯盟所在地ヲ「ジュネーヴ」ニ決定シタノハ多數決ダツタデハ無イカト注意シタラ、議長ハ今迄多數決ノ制ヲ採用シタノハ聯盟所在地問題ヲ決定スル時丈ケデアツタ、何ントナレバ多數決ニ依ル外此問題ノ決シ様ガナカツタカラデアル、然ルニ現在ノ提案ニ對シテ多數ハ賛成デアルガ同時ニ大ナル反對意見ガアルカラ之ヲ採用スル譯ニ行カヌト答ヘタ。塞耳比「ヴェスニツチ」公使ハ日本案ニ所謂國民平等ノ主義ハ國際法ノ一原則ヲ表明シタノニ外ナラヌ、又他國民ニ對シテ公正ノ待遇ヲ與フルコトハ、一國民ガ其名譽ヲ自重スル所以デアル、此等ノ原則ハ何人ト雖モ之ヲ否認スルコトハ出來ヌ、委員會ノ票決ハ牧野男ト

日本ノ輿論が以上ノ點ニ付充分ノ満足ヲ持チ得ルコトヲ示シタト述べ、「セシル」卿ハ聯盟規約ハ法ノ諸問題ニ觸レヌコトヲ希望スル、此沈黙ハ諸種ノ論議ヲ回避スル所以ダト酬ヒ、議長ハ何人モ今行ハレタ投票ヲ日本委員提出ノ原則ノ敗北ナリト解釋スル意思ハナイダラウト聲明シタ。牧野男ハ日本ハ其主張ノ正當ナルヲ信ズルガ故ニ機會アル毎ニ本問題ヲ提起セザルヲ得ヌ、又本々自分等ノ爲セル陳述及賛否ノ數ハ之レヲ議事録ニ掲ゲラレタイト述べ議長之レヲ了承シタ。

聯盟委員會ニ於ケル採決ノ態様ヲ見ルニ、二月十四日講和會議第三回總會議ニ規約草案ヲ出ス迄ハ、多數決デ各條項ノ採否等ヲ取扱ツテ居タガ、「ウキルソン」大統領ガ米國カラ歸ツテ來テ愈々最後ノ審議ニ入ツタ三月二十二日以降ハ、寧ロ懇談的ニ討究スル形式ヲ採リ、多數決ニ依ラヌ趣旨デ議事ヲ進メタ、其例外ハ聯盟本部所在地ヲ決定スル時丈ダツタノデ、日本案ハ前記ノ如ク大多數ノ賛成ヲ得タニ拘ラズ不成立ニ終ツタ次第ダ、ガ問題ノ性質ニ鑑ミ本件ニ多數決制ヲ適用スルコトガ理窟上到底不可能ナコトハ多言ヲ要セスト思フ何レニセヨ委員會ハ、我主張ノ極メテ穩當ナルヲ認メ「セシル」卿ノ所述モ何等肯首スルニ足ルモノ無ク、寧ロ一種板挾ミノ境遇ニ立ツタ苦衷ヲ表白シタ様ナ感ガアツタ。又米國側ハ我主張ニ對シテ一旦主義上ノ同意ヲ與ヘタノダカラ、其態度ヲ豹變セネバナラナク成ツタ事情ハ了解シ得ルトシテモ、餘程苦シイ立場ニ置カレタノデ此點ハ明カニ看得スルコトガ出來タ。要スルニ英米側デハ內心我主張ヲ諒トシナガラ、各自共國情ヲ顧慮シ、表面上反對セネバナラヌ極メテ困難ノ地位ニアツタ事ハ、委員會デ「ウキルソン」大統領「ハウス」大佐及「セシル」卿ガ執ツタ態度ニ能ク現ハレテ居タ。

我新提案ノ不成立總會議ニ於ケル牧野全權ノ聲明

斯クノ如ク我提案ハ委員會デ葬ラレタガ、之レヲ更ニ聯盟規約最後ノ採否ヲ決スル總會議ニ上程シ、天下公論ノ背景ヲ擁シテ輸贏ヲ爭フノモ正ニ一手段デアル、然シ英米ノ態度ニ徴シ其結果ハ自ラ明カデ、又委員會デ賛意ヲ表シタ諸國ガ此形勢ノ下ニ如何ナ豹變振ヲ示スカ豫測ハ出來ヌ、殊ニ四月十一日委員會ニ出シタモノハ極度ノ讓步案ナノデ、我方トシテ決シテ満足シテ居ルノデハナイ、ソシテ總會議ニ出ストスレバ矢張り此案其儘ヲ上程スル外致方ガ無イカラ寧ロ提案スルノヲ止メテ我主張ヲ徹底的ニ開陳シテ將來ノ地歩ヲ作ツテ置ク方ガ有利デアル。此見地カラ牧野全權ハ聯盟規約ノ決定サレタ四月二十八日ノ講和會議第五回總會議デ左ノ演說ヲ爲スニ止メタ。

余ハ最初二月十三日國際聯盟委員會ニ文化ノ程度進ミ聯盟員トシテ充分資格ヲ有スルモノト認メラルル國家ノ人民ニ對シテハ、其人種或ハ國籍ノ如何ヲ論ゼズ、均等公平ノ待遇ヲ與フルコトノ主義ヲ包含セル聯盟規約修正案ヲ提出セリ、當時余ハ人種問題ハ常ニ苦情ノ種トナリ何時緊急危險ノ問題トナルヤモ計リ難キモノナルニ付、之レニ關スル條項ヲ聯盟規約中ニ設クルコトハ極メテ望マシキコトナル旨、同委員會ノ注意ヲ喚起セリ、勿論右主義ノ實行ニ關シ多岐多様ノ困難之レニ伴ヘルコトハ充分承知シ居リタル次第ナルモ、各國民間ノ誤解ハ時ニ制シ切レザル程度ニ達スルコトアルベク、事頗ル重大ナルベキコトニ想到セバ、此等困難モ敢テ打克チ得ザルコトモアラザルベシ、依テ嘗テハ不可能ト認メラレタルモ事モ將ニ完成

セラレムトスル今日ノ如キ機會ニ於テ本件ヲ處理セムコトヲ希望セル次第ナリ、尙ホ余ハ本問題ガ極メテ微妙且ツ錯綜セル問題ニシテ深甚ナル感情ノ發動之レニ伴フモノナルニ付、此際直チニ理想的平等主義ノ實現ヲ計ラムトスルモノニ非ズ、茲ニ提議セル條項ニ於テハ單ニ右ノ主義ヲ闡明シ、其實際運用ニ至リテハ關係各國政府ノ意嚮ニ之レヲ一任セムトスルモノナル旨、明確ニ説明スル所アリタリ、換言スレバ該條項ハ關係各國政府及人民ニ於テ一層詳細ニ誠意本問題ヲ考查シ、公平順應ノ精神ヲ以テ其解決方法ヲ案出スルニ至ラムコトヲ慫慂セムトスル一ノ勸告ノ積リニテ提議セルモノナリ、且ツ余ハ國際聯盟ハ云ハバ戰爭ニ對スル世界的保險組織ナルヲ以テ、攻撃ヲ受ケタル場合ニハ之レヲ防禦スルニ好適ノ地位ニアル國民ハ同僚聯盟員ノ領土ノ保全及政治上ノ獨立ヲ防護スルノ覺悟ヲ要スベキコトニ關シ注意ヲ喚起シ置キタリ右ハ即チ聯盟國ノ人民ハ共同目的ノ爲メ軍費ヲ負擔シ、必要ノ場合ニハ其生命ヲモ犠牲ニスルノ覺悟ナカルベカラザルコトヲ意味ス、斯クノ如ク自己ノ所屬國ガ聯盟加入ノ結果其國民ハ此等ノ新タナル義務ヲ負擔セザル可ラザル事實ニ鑑ミ、國民各自ニ於テハ自己ノ生命ヲ賭シテ迄モ防禦セムトスル人民ハ均等ノ立場ニ置カレムコトヲ希望シ、且ツ之レヲ要求スルハ蓋シ當然ノ數ナリ、然レドモ吾人ノ提唱セシ修正案ハ遂ニ委員會ニ於テ採用セラレザリキ、翌日即チ二月十四日ノ總會ニ於テ我が修正案ヲ包含セザル聯盟規約報告セラレタル際、余ハ世界ノ永久ノ平和ノ基ヲ作り之レヲ確保スル一切ノ計畫ニ對シテハ全幅ノ同情ヲ以テ進ンデ最善ノ貢獻ヲ爲スベキコトヲ述べ、同時ニ日本ノ提議ハ遠カラズ再ビ會議ニ提出セラレベシトノ留保ヲ爲シ置キタリ。

越エテ四月十一日委員會ニ於テ各國民ノ平等ヲ認メ並ニ其所屬各人ニ對シ公正ナル待遇ヲ與フル主義ヲ認ムル一句ヲ聯盟規約ノ前文ニ插入セムコトヲ提議シタル處多數ノ贊同ヲ博シタルモ全會一致ノ贊成ヲ得ルコト能ハズ、遂ニ同提案モ亦採用セラレザルコトナレリ、右改訂修正案ハ委員會ニ於テ充分説明シ置キタル如ク吾人ノ要望ヲ満足セシムル底ノモノナラザリシト雖モ、各國ノ異ナル見解ヲ調和セムトシテ努メタル結果之レヲ提出スルコトナリタルナリ、然ルニ委員會ニ於テハ右改訂修正案スラ聯盟規約草案中ニ插入セザルコトニ決定セラレタルニ付テハ、余ハ此際最初ノ提案ニ復歸シ、本件ニ關スル吾人ノ立場ヲ明カニ聲明シ置カザル可ラズ。將來國民間ノ關係ニ於テ吾人ガ之レニ基キ行ハレムコトヲ要望スル主義トシテ最初ノ修正案ニ於テ提議セル處左ノ如シ。

各國民均等ノ主義ハ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ、締約國ハ成ルベク速カニ、聯盟員タル國家ニ屬スル一切ノ外國人ニ對シ、如何ナル點ニ付テモ均等公正ノ待遇ヲ與へ、人種或ハ國籍ノ如何ニ依リ法律上或ハ事實上何等差別ヲ設ケザルコトヲ約ス。

抑モ聯盟ノ大業タル時々變更スル各國政府ノ措置ニ依ルヨリモ、寧ロ關係各國民ガ同組織ニ包容セラルル崇高ナル理想ヲ誠意受ケ入レ忠實ニ之レヲ遵奉スルニ依リ、其恒久的成功ヲ博シ得ル次第ニテ、民本主義ノ今日ニ於テハ人民各自右大業ノ管理者ナリトノ觀念ヲ有セザル可ラズ、而シテ斯カル觀念ハ誠意アル協調並ニ相互信頼ノ確實ナル保障ヲ以テ初メテ之レヲ抱懷スルヲ得ベキナリ。

或國民ニ對シテ平等公平ノ待遇ヲ與ヘザルコトナラムカ、ソハ其國民ノ性質及立場ニ對シ異様ノ感想ヲ

與フルコトトモナリ、遂ニハ將來聯盟各員ノ國際關係ヲ律スル規準タルベキ正義公平ノ主義ニ對スル彼等ノ信念ヲ動搖セシムルニ至ルベシ、斯カル心的狀態ハ目下考慮中ナル聯盟唯一ノ確乎タル基礎タルベキ戮力協調ニ對シ最モ有害ナルモノタルベク、吾人ガ前顯ノ提議ヲ聆テシタルモ畢竟好意、公平並ニ道理ノ健實ニシテ且ツ確固タル基礎ノ下ニ國際聯盟ノ建設セラレムコトヲ希望セルガ故ニ外ナラズ、然リト雖モ吾人ハ敢テ此機會ニ於テ我提案ノ採用ヲ迫ルモノニ非ズ。

終リニ臨ミ余ハ日本政府及人民ハ永年不斷ノ不滿ヲ解決セムコトヲ目的トシ、深甚ナル國民的確信ニ基ケル公平ナル主義ノ主張ガ、委員會ニ於テ採擇セラレザリシヲ頗ル遺憾ニ感ズルコトヲ、茲ニ明確ニ宣言スルヲ余ノ義務ナリト信ズ、日本國政府及人臣ハ此主義ガ將來聯盟ニ依ツテ採用セラルルニ至ル様其努力ヲ繼續スベシ。

第三十八章 聯盟理事會決議ノ態様

十三對一、昭和六年十月ノ理事會デ此苦シイ羽目ニ陷ツタ芳澤代表ニ對シ、日本全國民ハ衷心同情スルト同時ニ、斯カル結果ヲ招致セシメタ各理事ノ錯覺ニ驚倒シテ居ル、然シ一票ノ反對ガ理事會ノ議決ヲ左右シ得ルコトハ規約第五條ノ明記スル所デ、其規定ハ左ノ通りデアル。

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外、聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ハ其會議ニ代表セラルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス。

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ、特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ、聯盟總會又ハ聯盟理事會之レヲ定ム、此場合ニ於テハ其會議ニ代表セラルル聯盟國ノ過半数ニ依リテ之レヲ決定スルコトヲ得。

國際聯盟ガ超國家的機關デ無イコトハ聯盟創立ノ當初カラ確立サレタ大原則デアルガ、他方聯盟ノ權威ハ主トシテ世界ノ輿論ニ訴ヘテ事ノ判斷ヲ仰グノニアルカラ、動モスレバ多數ガ少數ヲ壓迫セントスル鋒鏑ヲ示シ右ノ大原則ヲ蹂躪セントスル潮流ガアル。此事ハ最初カラ大凡ソ豫期シ得タノデ第五條第一項ノ冒頭ニ「本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外」ト云フ一句ヲ入レテ、第二項ニ規定スル手